ID	受理日	番号	報告者名	一般名	生物由来成分名	原材料名	原産国	含有区分	文献	症例	適正使用措置	感染症(PT)	出典	概要
												ウイルス感染	CDC Press Release 2007年8月22日	米国疾病対策予防センター(CDC)と協力施設の科学者が、よく見られるアフリカフルーツコウモリの一種において、マールブルグウイルス感染を特定することに初めて成功した。マールブルグウイルスは、ヒトや霊長類に重篤で死に至ることも多い出血熱を引き起こす。コウモリがマールブルグウイルスを保有することが疑われていたが、証拠はなかった。この研究結果はPlos ONEに掲載された。この研究は、マールブルグウイルスの伝播についてより理解し、ヒトにおける感染拡大を予防・減少させる助力になると思われる。
												デング熱	ABC Newsletter 2007年7月20日	オーストラリアのクイーンズランド州北部におけるデング熱アウトブレイクにより、赤十字血液サービスは流行地に滞在した人から供血された血液製剤の廃棄を余儀なくされた。局地的アウトブレイクは3月末にSouth Townsvilleで始まったが、5月14日以降、新規症例は記録されていない。赤十字のスポークスマンによると、供血以前に同地を訪れた供血者由来の赤血球・血小板は破棄するが、血漿は使用できるとのことである。供血制限は、アウトブレイクの終息が正式に宣言されるまで継続される。
												ウエストナイルウイルス	The New York Times 2007年7月26日	米国におけるウエストナイルウイルス症例数は1年前の約4倍であり、大流行がおこる可能性があると政府研究者が報告している。昨年は米国で4,269症例が報告され、この中には1,495例の脳症が含まれ、177人が死亡した。今年はこれまで122症例が報告され、カリフォルニア州と南北ダコタ州で最も多いが、昨年の同時期は33例のみであった。今年は既に脳症が42例および死亡が3例ある。
												A型肝炎	J Med Virol 2007; 79: 356-365	1997-2005年に、デンマーク、ドイツ、オランダ、ノルウェー、スペイン、スウェーデンおよび英国で、男性同性愛者にA型肝炎が大流行した。このA型肝炎アウトブレイクに関連する株の遺伝子学的関連性を調べたところ、これらの国の男性同性愛者から得られた株の大部分はMSM1と名づけられた遺伝子型IAに属する近縁のクラスターを形成していた。同期間に他のリスク群では異なったHAV株が流行していたことから、特異的な株がヨーロッパの男性同性愛者間では流行していたことを示す。